令和６年度　第２回　高石市保健医療福祉審議会　議事録

【開催日時】　令和７年２月７日（金）　午後２時から開催

【開催場所】　高石市役所　本館２階　正庁会議室

【出席委員】　委員２０名中１４名の委員が出席され開催いたしました。

畠中　宗一　　野口　　緑　　金谷　志子
矢田　克嗣　　戸堂　耕造　　平松眞理子
山崎　雅雄　　中野　　均　　工藤由加里
野﨑　英俊　　今道　裕之　　嶋田　吉秀
松若　貞二　　小谷　哲夫
（以上委員１４名）

【欠席委員】　福島　俊也　　中谷　正彦　　柴田　正明
嶋田　充伸　　若﨑　孝子　　山内　和彦

【傍 聴 者】　なし

【日　　程】　議題１　「第６次高石市地域福祉計画・第５次高石市地域福祉活動計画」の策定（素案）について
議題２　その他

【質疑応答】

・議題１　「第６次高石市地域福祉計画・第５次高石市地域福祉活動計画」の策定（素案）について

（会　長）議論に入る前に、まず策定部会でどういった議論がされたか紹介していただき、その後に各委員よりご意見をいただければと思います。

（委　員）策定部会の報告をします。昨年１１月１８日、今年１月２７日の２回、開催しました。そこでのご意見を一部紹介します。
まず、地域福祉を進めていく上で地元の協力は大事ですが、校区福祉委員をはじめ様々な地域の担い手が高齢化し、人数も減少してきており、今後、地域福祉の担い

手をどう確保していくかが課題であるというご意見。
それから、地域での相談活動の中で、本当に困っている方かどうか外からなかなか分からない現状がありますが、個人情報等の問題もあり、踏み込めず、活動の難しさを感じており、また見守り等で手を差し伸べてもそれを拒否される方もいて、日頃から隣近所の方とどれだけお付き合いできているかが大きなポイントになるのではないかというご意見。
また、困り事を抱えている方の中には、誰に、どこに相談すればいいのか分からない方もいて、相談すれば何でも聞いてくれる１つの窓口が必要なのではないかというご意見。
他には、高齢の方を中心とした健康づくりは大事で、それに対する活動、取組もありますが、認知症の方が増えている中、認知症になっても安心・安全に暮らせる施策も必要であるというご意見もありました。
今回の市民アンケートの中で、防災対策の個別避難計画について、多くの方が知らない状況ですが、高齢者や障がいのある方の避難など防災対策はとても重要なので、行政から市民に対して認知度を上げるための取組を行っていただきたいというご意見。
最後に、地域福祉の施策を進める上でＩＣＴの活用が必要だと思われるので、今後もそういった取組を施策に取り入れていただきたいというご意見もありました。
作業部会でのこれらのご意見を踏まえ、事務局が今回素案として計画されております。

（会　長）多くのご意見が出て、それらの意見が反映されて今回の素案ができているということです。それでは内容について何かご意見ございますか。

（委　員）見守り安否確認システムについて、独り暮らしの高齢の方やそのご家族にとって、こういうシステムがあると安心できる反面、情報が集中するとその管理・セキュリティーの問題がリスクとして挙げられると思います。独り暮らしで社会的弱者の方の名簿のようにとらえられ、人目に触れたり出回ったりすると、悪用される可能性もあります。善意で携わって下さる方の中に、万に一つ悪用しようとする人が出てきたときの対策が必要だと思います。セキュリティー・管理方法、安全対策の構築、定期的な点検などの規定をつくっていただきたいと思います。

（会　長）先ほどのご意見ですが、世の中を好意的に見る人たちばかりじゃない、詐欺に遭ったりいろんな事件に巻き込まれたり、様々なことが起きている現実があります。そのための対策も必要というご意見です。

（委　員）見守り安否確認システムは、地域住民の方と共に一緒に地域づくりをしていくという意味ではとても重要で新しいシステムだと思いますが、セキュリティー面だけでなく、見守り登録員の資格、いろいろな団体から選出された人ということですので、見守り登録員であるということの責任・役割についての十分な教育、そういう仕組みも整備しておく必要があるのではないかと思いました。
見守り安心相談室の機能ですが、通報・報告があれば結果を報告ということですが、どこまで情報を提供するのかというようなことが明確になっているか疑問に思いました。
また、ボランティアの方をどんどん育成して、地域とのつながりをつくっていくということですが、市民アンケートの中の１６ページに近所の人との関係や地域での孤立感の割合を見ますと、年齢が上がるほど近所の人との関係性は高いけれど孤立感もあるとなっています。地域に関心を持つ、地域とのつながりをつくる世代として６０代というのはキーになると思います。そのあたりについてどのように考えられているのか伺いたいです。

（会　長）計画自体は、上手く描かれていますが、具体的にその計画を実行し運用していく段階では、個人情報への配慮なども含めて、いろいろな不手際が起こらないような枠組み・仕組みをつくっていく必要があるのではないかというご意見です。

（事務局）見守り安否確認システムについてのセキュリティーですが、個人情報を悪用して、昨今多い特殊詐欺などに利用されてしまう可能性もあり、見守り登録員に対して、個人情報の取扱いについてのレクチャーや注意喚起をしていく必要があると思っています。見守り登録員に対して、渡した情報をしっかり管理していただくという同意等を取っておくとともに、説明の機会を設けてご理解いただくように努めたいと考えています。
また、先ほどボランティアでは６０代あたりが境目になるというご意見がありました。アンケートの中で、若い方がなぜボランティアをしないのかという点ですが、働いていて仕事が忙しい、家庭が忙しいからできないというご意見が一番多かったのですが、もう一方できっかけがないというご意見もありました。どういったボランティア活動が地域でされているかという情報提供がうまくできていないというところもあると思います。今回、課題として若い方への情報提供が挙げられます。
若い方に対しての取組について、具体的な施策は織り込んでいないのですが、何かのイベントの際に、若い方が集まるところでの周知などを検討していきたいと考えています。

（委　員）ＳＮＳを使うことも重要だと思います。最近では、６０代の方も使われていますが、年代・年齢に合った情報提供の方法、また今後の自分について知ったり学んだりする機会があればボランティア活動にもっと積極的になっていくのではないかと思います。そういったことも織り込んでいただきたいです。

（委　員）地域福祉の資料を頂いていますが、福祉でみんなが幸せにという考えからすれば、「みんな」という対象について考えるべきだと思います。
これから生まれる赤ちゃん、子どもに関する視点も非常に重要になってくるといえます。先日、２０２４年の出生数の全国発表がありましたがマイナス５．８％、前年度の９４．２％です。このペースが１０年続いた場合、現在４００名弱の高石市の出生が、半分の２００名になる可能性があります。深刻な問題だと認識し、そういうところにも視点を置くべきだと思います。
また、暮らしやすさという点では３０代、４０代、５０代の低さが、７０代、８０代に比べると明らかに低く際立っています。地域での孤立感も４０代、５０代が際立っており、６０代にも言えると思います。これは自殺の問題にもつながっていると思います。７０代、６０代以降は高石では非常に多幸感が強く、自殺の率が全国平均に比べるとはるかに低いです。自殺だけで判断するのは難しいですが、住みよいと感じている方が多いと思われます。ただ、２０代、３０代、４０代、５０代に関しては全国平均並み、もしくはやや高いくらいで、年代による差が明瞭です。
出生率自体は全国よりやや高いのですが、子育て世代の人たちにとって住みよいとか、すごくいい環境だとは思われていないと感じます。
今この場では２０代、３０代、４０代の意見は一切出てきません。お子さんを増やすにはどうしたらいいかということを話し合うためにも、２０代、３０代、４０代の意見をくみ上げていかないといけないと思います。福祉はお子さんも含めてだという視点を、強く提言しておくべきだと思います。
社会福祉協議会にしても、どうしてもお年を召した方に向いている面が強いと思います。子育て支援もうたっていますが、実態的にそれがうまく機能していないのではないかという反省も必要だと思います。
出生数が明らかに減少しているということを認識し、もっとその点を重視してもいいのではないかと考えます。若い世代をどうやってサポートするのかという問題について今の施策でいいのか、いろんな議論が必要だと感じます。

（会　長）子ども・子育て施策については、別に子ども・子育て会議というのがあり、現在別途会議を進めています。事務局、状況報告して下さい。

（事務局）今年度、子ども・子育て事業計画について、子ども・子育て会議で、子ども世代に特化して、議論させていただいております。
全国的に少子化が急速に進んでいる現状の中、高石市においてもその傾向は同様です。数値だけ見ると、大阪府や全国平均と比べると、出生数・合計特殊出生率等は若干大阪府平均、全国平均よりは上回りますが、減少傾向であるということに変わりありません。そういった中で、子ども・子育ての事業に関するサービスをよりよくしていくために、子ども・子育て会議で議論していただきました。
そこで待機児童の解消についてご意見をいただき、次年度では新たに小規模保育の施設やそのほかのサービスについても充実させていくよう、予算化して進めていきたいと考えています。

（委　員）やはり福祉と言えば、どうしても高齢者に向いてしまい、団塊の世代・団塊のジュニア世代の意見が反映される傾向があり、今の３０代、４０代以下の意見が反映されにくいと考えます。行政は、どうしても政治的な影響を受けやすいと思います。
意見を拾い上げるという点で、社会福祉協議会の役割は大きいと思います。子育て世代など人数は少ないですが、その世代にもウエイトを置いていくという努力をしないと、ますますボリュームが小さくなってしまいます。社会福祉協議会はそういうところを、しっかりやれる組織じゃないかと感じています。
出生数マイナス５．８％という深刻な状況を自覚し、どう行動するかということが問われているように思います。

（会　長）他にご意見ございませんか。

（委　員）以前、人口を増やしてほしい、雇用を増やしてほしいと意見を述べたことがあります。地方自治体にとって一番大事だと思ったからです。
そのために、福祉でどうしていくか、若年者、若い人の世代の意見をどう拾い上げていくかということも大切だと思います。
私の考えですが、働いている人は仕事で昼間はいませんので、ボランティアの対象になりにくいと思います。年齢で分けるのではなく、昼間仕事している人とそうでない人に分けて考えた方がいいと思います。例えば定年で今仕事していない人を対象に考え、無償というか見返りも無く働いていただくというのではなく、ボランティアポイントなどに力を入れて、施策を考えていかないといけないと思います。
今回の資料は、よい計画ができていると思います。縦割りだった役所が、横のつながりが出てきたと思いました。他の委員会でも役所を横断して、みんなで手伝って

助けに行こうという話合いが生まれています。そういう話を市民の皆さんに聞いていただき、皆さん、手伝ってくださいと言いたいです。
もう一つ、例えばコミュニティカフェなどに来て、顔の見える関係になれば、困りごとがあればちょっと助けようと思うのではないでしょうか。見たことのない人を助けに行ってくださいと言ってもなかなか難しい。地方のまちが潰れてしまわないように、生き残っていくことを考えるために、根本的に考え方を変えて対策を練っていく必要があると感じました。
また、これまで何回も他の会議にも参加していますが、実行された例が少ないと感じます。１つでもいい、何でもいいのでやってみて、問題や不都合な点が出た時、また会議をしてここを直しましょうということが大事なのではないかと思います。実行されないまま終わったり、なくなった会議もあります。コミュニティカフェなどでもっと問題点を挙げてもらって、どうしたら手伝えるのかを考えていかないといけないと感じました。そのためには一番大事なのは、市民の皆さんに知ってもらうことではないかと思います。

（会　長）私もこういった審議会に長年関わってきて、きれいごとばかりというイメージで捉えていた時期がありましたが、ここ数年ですが皆さんが本腰を入れて汗をかきながら一歩一歩前に進んでいるイメージも少しあり、いい傾向です。ステップ・バイ・ステップで山を登って行く、そして１０年後、２０年後にきちんとしたまちづくり・人づくりができていくという、そういうことを目指すべきではないかと思います。
ほかに何か意見ありますか。

（委　員）子どもの人口動態の話がありましたが、子育て支援、認定こども園など運営している立場から、述べさせていただきます。
認定こども園、保育園等でも子育て支援について、地域に園庭開放や親子教室などの情報提供をしています。地域の方に小児科の医師に来ていただく日を伝え、子どものことで気になることがあれば、無料ですからその日に相談に来てくださいということを案内しています。そういったサービスをアナウンスしたり、市の広報等に提供させていただいています。ただ、実際に子育てで悩んでいる方からたくさん相談があったかというと、年間でほんの数件ということがあります。社会福祉協議会とともにさらにアナウンスに努め、今あるサービスをもう少し浸透させ、利用してもらえるようにしていかないといけないと思っています。

（委　員）医師会でも、頸がんワクチンの啓発を行っていますが、広報しても３割に届かない

状況です。問題は異なりますが、宣伝に苦慮している点は同じだと思いますので、ご意見を伺いたい。

（事務局）情報発信についてどのようにして周知したらご理解いただけるかというところは、行政としても非常に苦慮しています。
広報紙やホームページ、最近ではＬＩＮＥでプッシュ通知などさせていただいています。いろいろな世代がいる中、情報取得元は異なっています。対象世代に合わせた広報媒体を使っていくということが１つです。どういった方を対象にするかを明確に考えた上で、対象の方が集まる場を探し、その場に赴いて周知していくということを啓発していきたいと考えています。

（会　長）様々な領域で、発信する力は大切だと感じます。ＳＮＳやフェイスブック等含めてです。そういうことに抵抗のある世代、そういうものを使って自分を出していく世代というように、世代の感覚も違いがあると思います。
園からの発信はどういうふうにされていますか。

（委　員）市の広報や、園のホームページを基本的にしていますが、我々の世界でいえばお母さん同士の口コミというのが一番大きいです。見守り支援訪問や、こんにちは赤ちゃん訪問などで訪問の際に、こども園ではこういう事業があるので、気が向いたら園に遊びに行ってみたらどうかといったことを、直接つながりのある活動にリンクさせてこども園のサービスを周知しています。我々が外に出ていくというよりも、今ある活動の中で一手間かけていけばつながっていくと感じています。

（会　長）ほかにご意見ございませんか。

（委　員）認定こども園の話も出ましたが、市民と一緒に人づくり・まちづくりということは出てきますが、団体・企業などとの関係はあまり言及されていなかったのではないかと思います。
それから、６６ページに福祉サービス等の提供体制の充実ということで、健康づくりの推進というところまで記載されていますが、市民の健康維持ということまで福祉計画に入っているのか、この福祉計画が健康、予防などの施策の上位計画としての位置づけになるのかどうかを教えていただきたい。

（事務局）まずこの計画の策定に当たり、市民アンケート・地域懇談会など、地域の福祉活動をしていただいている方のご意見をベースに作成したということを述べさせていた

だきます。
民間の事業者との連携については、必要な部分を連携によりレベルアップしていければと考えています。例えば、見守り安否確認システムなどは社会福祉協議会が運営をしていくと説明しましたが、社会福祉協議会も現在２４時間３６５日体制ではありません。例えば、民間の事業者の協力でより受け入れられる時間を長くしたり、また、防災では、個別避難計画を進めていく中で民間のケアマネジャーの方に協力していただいています。今後、この計画に基づく避難者が増えれば避難場所の確保も必要となってきます。避難場所については行政だけではなかなか賄えないところもありますので、この計画を基に民間の事業者と協定を締結させていただき、避難場所を確保するなど、さらに関係を広げていけるよう探っていきたいと考えています。
６６ページに健康づくりの掲載が一部ありますが、地域福祉計画は、各福祉施策の共通理念を示すという位置づけで、その下位計画として「健康たかいし２１」があるというイメージを掲載させていただいています。

（委　員）地域福祉計画が、健康計画や子ども・子育ての計画の上位計画ということを伺い、より広い概念で福祉を捉えておられることが理解できました。

（会　長）ほかにご意見いかがでしょうか。

（委　員）自助・共助・公助のところで、行政にプライバシーまで介入してほしい、行政が何もしてくれないという意味ではなくて、公助がどこまで関与していくか考えさせられました。
もう一つはボランティアというイメージについても考えさせられました。
障がい者の支援をしていますが、１つの拠点に取りあえず集まれば何かすることが毎日ある。一緒に作業をする、手伝う、その中でコミュニケーションが広がっていくのではないかと思いました。
それから、医療と介護と福祉の皆さんが集まる会議に参加させていただきましたが、大変意味があると思いました。障がい者福祉をしていますが、医療と割と近いイメージでありながら医療がないので、不安を感じます。そこに医療などのアプローチがあれば、障がいのある方たちに対してもっと積極的に、うちではこんなことやっているからもっと来てくださいと言えるようにとなると思います。医療と介護と障がい福祉、また保育、横の連携がしっかりできるだけでも、支えというものが生まれてくると思います。

（会　長）異なる団体がつながるような枠組みができつつあるように思います。実際に行ってみて、またそこでいろんな課題が出てくることになるかもしれません。
大体意見が出たようなので、議題１についての質疑はここで終わりたいと思います。
事務局より今後のスケジュールの説明をお願いします。

（事務局）今後のスケジュールについて説明させていただきます。
本日ご審議いただいた計画の素案について、本日のご意見を踏まえ、確認させていただいた後、来週末よりパブリックコメントを１か月間実施予定です。パブリックコメントにおける市民の皆様からのご意見を踏まえ、３月末に本計画の策定と考えています。
本来でしたら、３月末に再度審議会を開催し、答申をいただくところですが、パブリックコメントについては、どれだけいただけるか分かりかねます。ご意見が少数であるとか本計画への反映が必要ない場合、または軽微な変更となることも想定されます。
つきましては、次回審議会の開催に当たり、パブリックコメントの状況を踏まえ、さきのような状況の場合には審議会は開催せず、会長一任により答申等をいただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

（会　長）今、事務局からスケジュールの説明がありました。今後パブリックコメントを実施するということが１つ、場合によってはパブリックコメントで意見があまり出てこないということも、変更の必要がない場合もあるかもしれません。大きな変更が生じる場合には３月末に再度審議会で皆さんと審議して答申としますが、もし素案に大きな変更が必要ない場合、事務局の説明のように私に一任いただいて答申とさせていただくということでいかがでしょうか。

（委　員）異議なし。

（会　長）では、次回審議会はパブリックコメントの結果次第で非開催になります。非開催の場合、私の確認をもって答申とさせていただきます。

（事務局）審議会の開催・非開催にかかわらず、委員の皆様には結果をご連絡を差し上げたいと考えています。

（会　長）了解しました。
それでは、以上をもちまして本日の審議会を閉会します。

スムーズな議事進行にご協力をいただき誠にありがとうございました。